

富山湾におけるホタルイカの長期的な漁獲トレンドについて

海洋資源課

主任研究員 南條 暢聡

1 背景・ねらい

富山県におけるホタルイカの漁獲量は大きく変動することが知られている（図 1）。その変動については様々な要因があるとされており、漁獲量の予測を困難なものにしている原因ともなっている。そこで、本研究では、ホタルイカ漁獲量の長期的なトレンド（傾向）を調べることにより、漁獲量を左右する条件について検証を行ったのでその結果について報告する。

2 成果の概要

富山県のホタルイカの漁獲量について 5 年の移動平均を計算したところ、一定の増減傾向があることが分かった（図 2）。

また、ホタルイカの漁獲量は、1970 年代後半から 1980 年代後半にかけて減少する傾向があり、レジームシフトに対応した変動と考えられた（図 2）。そこで、主産卵場である山陰沖海域から若狭湾における、3～5 月の卵の分布傾向について解析を行った。その結果、寒冷期（寒冷レジーム）には、産卵場の縮小および全体の卵密度の低下が起り、逆に温暖期（温暖レジーム）になると、産卵場が拡大し卵密度も増加することが明らかとなった（図 3）。このような産卵場の変化は、漁獲量を変動させる要因の一つと考えられる。

3 成果の活用面・留意点

本研究で得られた結果は、ホタルイカ漁況予報を作成するための基本情報として活用される。

今後は、産卵場の変化と漁獲量の変化を結びつけるメカニズムの推定や、長期的に一定の増減傾向を示す要因を解明していくことが必要である。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 海洋資源課

担当：南條 暢聡

TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

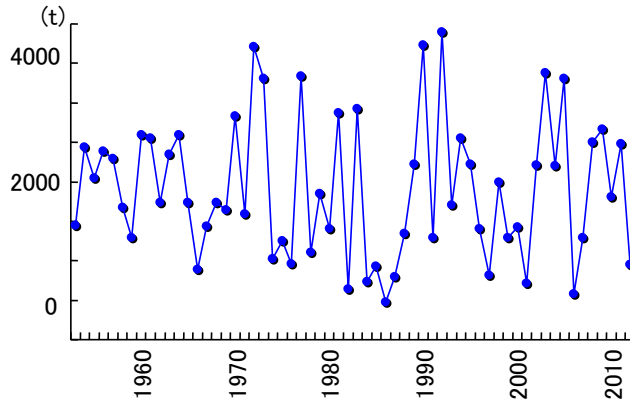


図1 富山県におけるホタルイカの漁獲量

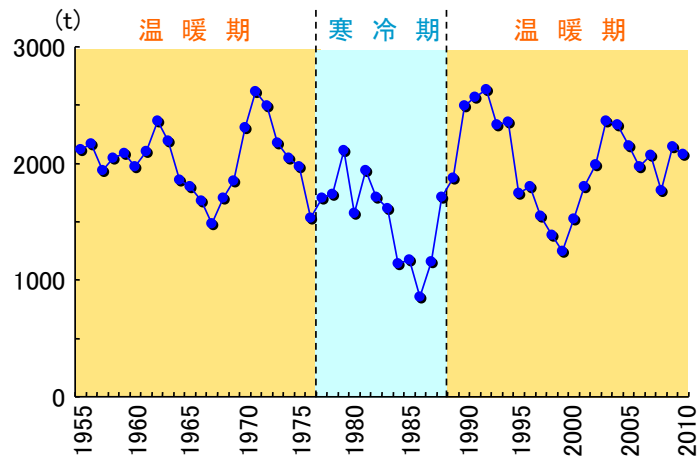


図2 富山県におけるホタルイカの漁獲量 (5年移動平均) とレジームの関係

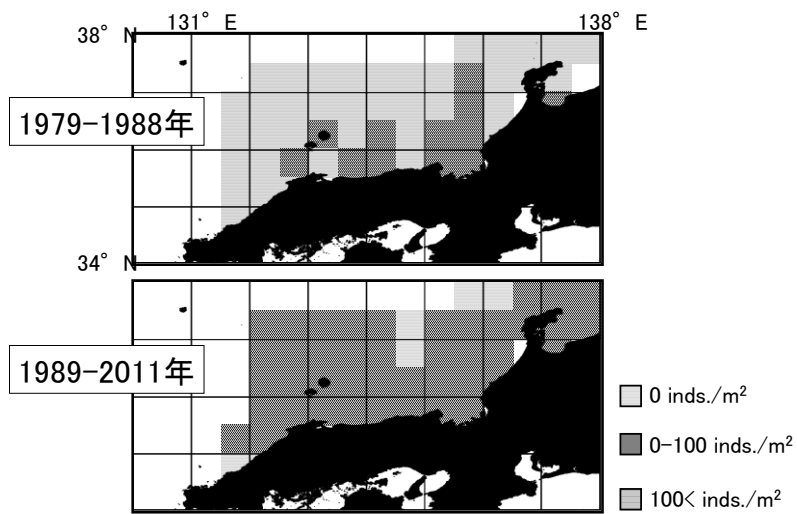


図3 3月の山陰～若狭湾海域におけるホタルイカ卵の分布密度 (上: 寒冷期の中央値 下: 温暖期の中央値)